

解体には、多額の費用が掛かりますので、活用できるものは再利用するという視点はとても大切だと思います。

今後、校舎を含めた校地の再利用について、安全に使えるかどうか、位置的に便利に使えるかどうか等を考慮した上で、町民の皆さんの声を聞く手段としてアンケートを行うことも含めて検討していきたいと考えています。



門田 朱莉さん

**質問**

幌延町は、人口減少しつつあるので、幌延町を移住候補地と選定してもらう必要があると考えます。PR方法として、ワーケーションの誘致があると考えます。宿泊費の補助や町営住宅の貸し出し、ワーケ

ーションの費用補助などできないでしょうか。ほかに、道内各地では、いろいろな冬のイベントをやっています。

そこで、幌延町でも、冬場のレジャーのPRと併せて、短期で入居してもらい、幌延町に住んでもらうことは、できないでしょうか。

**答弁**

幌延町が、休暇地、滞在地として選ばれるためには、門田さんが考えたとおり、町の魅力を広くアピールすることが有効だと私も考えます。幌延の豊かな自然や静かな環境はアピールポイントになると考えますので、豊富町と連携し、滞在場所の提供や支援策、また、楽しいイベントの企画などにより楽しく過ごせる環境を提供することができれば、町が賑やかになると考えます。

現状では、移住促進政策として、移住促進住宅を設け、多くの方にワーケ

ーションを含めた形でご利用いただいています。移住体験した方に話を聞くと、幌延は道北地域の中心に位置しており、幌延を拠点として、活動しやすいというメリットがあるそうです。現時点でワーケーションの誘致や費用補助などの考えはありませんが、町としてできることを引き続き検討したいと考えています。

**お詫びと訂正**

ほろのべ議会だより第135号で掲載した記事の一部に誤りがありました。

齋賀議員の小中一貫校に関する質問の答弁者を誤って町長と掲載してしまいました。

正しくは教育長の答弁でした。

お詫びして訂正いたします。



傍聴に来た幌延小学校6年生の記念撮影